



1990年9月15日「吾味の会」対「藤沢薬品」の野球大会 藤沢主力メンバーを欠き、吾味の楽勝

# 関西にはこんなオモロイ 化学者集団がいる

専門を超えた気がるなつきあい——吾味の会——

## ゴミの会って何？

**編集部** 常づねゴミの会にはずいぶんユニークな先生がいらっしやるなあと思っていましたが、今日はゴミの会の中心メンバーの一人植村先生にその辺の面白さを存分に語っていただこうと思っています。まずゴミの会の由来からお願いします。

**植村** 昭和53年にできましたので、単純にゴミ、それに「吾味」という漢字をあてて、なんとなく意味をもたせています。まだゴミくずかもしれないが、「吾に味あり」というようなことで、京大の森島さん(分子工学専攻教授)か阪大の村井さん(工学部教授)が命名したんじゃないかな。一くせも二くせもあるやつらの集まりというのじゃありませんよ(笑)。

**編集部** 何人か吾味のメンバーを存じていますが、まさに個性集団そのものといった感じもしますが…。

**植村** まあユニークな人物が多いことは否定しません。発足当時は20名ぐらいでしたか。みんな35～40歳ぐらいの、ちょっとしっかりしてそうな、化学が大好きな、そして面白そうな感じの人間が集まって始まったわけです。現在58名、内訳は大学関係35名、企業関係23名、会長や幹事役など誰もいません。残念ながら女性はわずか3名。みんな好奇心旺盛で少しおちょこちょいな人が多いかもしれません(笑)。それにみんな声が大きく、自己主張も強い。とくに大阪市立工研の西口さんや阪大の足立さん(工学部教授)なんかその典型でしょうか(笑)。

**編集部** 発足の意義はどのようなことですか。

植村 関西には近化(近畿化学協会の通称)という大所帯があって、これはおもに化学でめしを食っている学者とか企業人の集まりですが、そのなかにまた各世代によって四緑会とか夏冬会とかいうサロンというグループがあるわけです。吾味の会もまあその一つとして、気のあった仲間がより集まった親睦団体ということで、また当時の近化の実働部隊でもあったわけです。

13年前といえば、みんな助手とか助教授、係長や課長といった若いころで、どうしても専門に没頭しがちになります。そういう専門を超えてお互いに知らないことを話したり、個人ではどうしてもいきにくい所へ見学について、それを肴にして飲んだり、そういう時間をぜひもとうや、ということで始まった。

編集部 いろんな専門の方がいらっしゃるわけですね。

植村 ええ、有機化学の人がわりに多いですが、そのほかに物理化学、無機化学、材料化学、高分子化学、生物化学、会社の経営者、…といろいろです。専門によって考え方も違って面白い。分野を超えた化学者集団としては、確かにユニークな存在でしょうね。

## 吾味の会らしさ

編集部 これまでにどんな企画を…。

植村 まあこの表(次頁参照)を見てください。まだぬけているかもしれませんが、これが吾味の歴史。イレブンPMを見にいこうやとか、神戸税関で差し押えた変なものを見にいこうやと、誰かがいいだす。すると、これだけいると幸い誰かにつてがあるんですね。それでだいたい決まることが多い。そういえば桜橋のトップレス喫茶もありましたね。誰がいいだしたのか忘れましたが、いいだしそうな二、三人の顔はすぐ浮かぶんですが…、ホント僕はいった記憶がない(笑)。

編集部 20人ぐらいの団体が、それも日頃かたい研究なんぞをしている先生方がぞろぞろとトップレス喫茶に入るなんて思っただけでゾッとしますね(笑)。

植村 その頃の風俗最前線だったんでしょうね。何にかぎらず最先端がわりに好きな連中ばかりですから(笑)。しかしこんなばかりじゃないですよ。真面目なものもある。朝日新聞社の見学とか、国立文化財研究所とか…。



うえむら さかえ  
(話し手) 植村 榮教授  
京都大学工学部

編集部 いえいえ、むしろあっちのほうが吾味の会らしくていい。で、もっとも印象に残っている企画は？

植村 イレブンPMのときのことはよく覚えている。確かキタのどこかで飲んで歩いて読売テレビまでいったんです。もうついた頃はみんな酔払って、盛りあがってワイワイ騒いでいたら、司会の藤本義一が「今日はやろうばかりでオモロくないですな」なんていっている。こっちはこっちで「なんやしょうもない、真面目な番組やないか」とかガヤガヤですわ(笑)。それが終

### 植村 榮(うえむら さかえ)

京都大学工学部教授(石油化学教室)、工博。

1941年1月2日大阪府生まれ、1963年京都大学工学部燃料化学科卒業。1968年同大学院博士課程修了。同年京都大学工学部助手。1969年京都大学化学研究所助手。1971~1973年英国ロンドン大学インペリアルカレッジ留学(ラムゼーフェロー)。1984年京都大学化学研究所助教授。1991年より現職。

研究テーマは、有機ヘテロ元素化合物のカルボニル化反応、有機セレン・テルル化合物の反応性の研究、不斉合成反応、遷移元素触媒によるアルケン、アルカンの酸化反応、固体酸触媒を用いる有機合成反応。

趣味は、二コソFで写真を撮ること、バドミントンで弱い人を相手にすること、田辺 元著「正法眼蔵の哲学私観」、平澤 興著「世の姿、心の姿」など化学以外の哲学書、随筆を読むこと(ただ一言、飲んで歌うことと書きたいのだが)。

## 吾味の会のおもな行事

昭和53年4月	発会(大阪飛田の元遊廓)	60年3月	くに荘にて再び吾味の会、 $\pi$ の会合同例会
7月	吹田の国立民族学博物館見学(夏冬会と合同)	61年12月	京都市染色試験場見学, 東山荘にてコンパ(われわれの一つ下の会“無為会”誕生。会員の整理, すなわち少しお年の人は上の四緑会へ, 少し若い人は下の無為会へ, それでもどうしても残りたいという人が多く, 50名を下回ることできず, ちょっと多いのが問題)
11月	大阪府警科学捜査研究所見学	62年4月	東京で吾味の会、 $\pi$ の会合同例会
54年1月	近化の新年交歓会の手伝い(実働部隊として昭和62年まで毎年続ける)	63年11月	鳥取へかに食い一泊旅行(吾味の会の10周年記念。参加者22名。なぜか鳥取大学で「化学」で若い人を刺激する講演会をやることになり, 私と大阪市工研の檜山圭一郎氏が貧乏くじを引く。あの講演は私にとっては専門からもう少し広く化学を見つめるよい機会になった)
8月	イレブンPM見学(皆痛飲)	平成1年3月	吾味の会、 $\pi$ の会合同例会(京都)
55年2月	大阪酒業会館で大立き酒会に出席	2年9月	藤沢薬品新薬研チームと軟式野球大会(雨で相手の主力が欠場し吾味の優勝)
4月	朝日新聞社見学(編集委員と討論)	3年4月	大セル, 日本触媒相手にまたまた野球の試合(スコアはどちらもひどく, 28対27と13対12とか)
6月	神戸税関見学(巡視艇に乗り神戸港一周)		
12月	島津製作所分析研見学(嵐山で乱痴気)		
56年4月	大阪造幣局校通り抜け。桜橋のトップレス喫茶見学(皆覚えがないそうですが記録にあり)		
10月	クラレ鷺羽山荘でパーティー(岡山大での秋の年会を肴に, ここで関東の連中を刺激, $\pi$ の会誕生につながる)		
57年4月	吾味の会、 $\pi$ の会合同コンパ(京都くに荘)		
5月	伊丹全日空整備工場見学		
59年1月	奈良国立文化財研究所見学		
11月	池田の大阪工業技術試験所と逸翁美術館見学(近くの“かき峰”でおいしいかきを食べるのが目的)		

わったのは真夜中の12時半ごろだったかな。そのあとのことはちょっとさしさわりのでいけません(笑)。

**編集部** うわさには聞いていますよ(笑)。だいたい会の締めくくりは宴会ですか。

**植村** ええ、必ずやります。みんな飲んべいというより、話好きでワイワイやるのが好きという人ばかりですから。

**編集部** その席ではどんなことが話題になりますか。

**植村** そのとき見学したことが話題になりますが、企業の人でも結構多いので大学人とは違った情報交換の場になっていることは確かですね。まあ僕はいつも酔払っているばかりですが(笑)。

**編集部** そういう情報が自分の研究に役立つことは?

**植村** みんなあるんじゃない。僕は、ある企業の人とそこで初めてあって協同研究することになったこともあります。でもそれはこの会の趣旨じゃありません。酒を飲みかわしながら、腹をわって本音でつきあえる気がるな関係ですね。あいつは将来偉くなるからとか、そんなさもしい気持ちはさらさらない。電話一本でなんでも無理をいいあえる仲ですね。みんなきつとそう思っている。

**編集部** この辺が関西人学者のいいところですかね。

**植村** 確かに関東にもわれわれと同じ世代でパイ( $\pi$ )の会というのがありますが、こうはいかないみたいですね。どうも東大と東工大が偉すぎるのか(?), 企業の方は“先生、先生”とやってうまくいかない。本音でつきあえる環境が少ないのかな? だからパイの会には企業の人はいないそうですよ。

## われわれはバカになれる世代だ

**編集部** 関西でもどうも最近の若い世代の人はスマートすぎるんじゃないか、という声もありますが…。

**植村** うん、そうですね。どちらかという、関東タイプになってきている。バカになりきれないところがある。われわれの世代は徹底的にバカになりきれぬ。

**編集部** 世代というより吾味は特別じゃないですか(笑)。

**植村** そうかもしれません。仲間を心から信頼しているからバカになれるということもいえる。それと、情熱はたえずもっているし、この仲間とずっと仲よくしたいという気持ちはみんなもっているんじゃないかな。ただ、何をやっても全部自分の責任だという自覚は常

にもっている。

僕自身いま思っているのは、こういう吾味の会にも入らず、本を読んだり文献を読んだりして研究室でくすぶっていたらまったく違ったタイプの人間になっていたでしょうね。だから次の世代の人でも何かいい機会があれば、思ってもいなかった自分の新しい面を引きだせると思いますよ。若手の会とかいろいろな機会を見つけて積極的に参加するのもいい。

**編集部** どちらが化学者として望ましいでしょうか？  
こんな時間があったら自分の研究でもしたほうがましだ、と考えている人がいることも事実です。

**植村** 確かにそういう人もいます。それは個人の価値観によるでしょうね。こういう会にでていろんな刺激を受けながら楽しい研究生生活を送りたいと判断した人が吾味に集まっている。ただ僕に関していえば、いろいろユニークな人間と出会って、人間としても研究者としても吾味の連中から得がたいものを学んだということは事実です。それは本音でつきあえるからなんです。そこが重要。

**編集部** それが結果的に視野を広げることになるわけですね。

**植村** ええ。もちろん自分の専門は大切です。しっかり自分のバックグラウンドをもちながら、専門を超えていろんな人とつきあっていろんな考えを吸収することが若いときにこそ必要じゃないかと思います。

**編集部** そこで重要なことは、かたちだけの通り一遍のつきあいじゃなくて、ハダカのつきあいができるかどうかということですね。それと、そういうつきあいを通して得た、なんでも無理をいいあえる仲間、これがこれからのキーワードかもしれませんね。

**植村** まさにそうです。そこが吾味の存在意義でもある。

## 老体(?)にむちうって野球大会

**編集部** ところで、最近の企画で野球大会というのがありますが、これもなかなか面白かったそうですね。

**植村** これにもいろいろいきさつがありましてね。先ほどいいましたように東京にパイの会がありますが、あそこには東大の干鯛さん(工学部教授)、東工大の諸



力投する京大伊藤先生(試合後1週間寝込んだとか)

岡さん(資源研教授)や桑嶋さん(理学部)とか野球好きの人がたくさんいて、関東のパイの会と関西の吾味の会でいっぺん横浜市営球場を借りきって野球大会をしようやということになりましてね。よし、じゃこちらも練習をかねて吾味の会で野球大会をしようということになった。

藤沢薬品に高谷さんという研究所長がおりまして、彼も吾味の会のメンバーですが、「わしのところに強いチームがおるし、宝塚のグラウンドでいっぺんしようや」ということになって、「吾味の会」対「藤沢薬品」の野球大会が実現したというわけです。

**編集部** 結果はどうでしたか？

**植村** 7対2で勝った。

**編集部** なかなかいいスコアですね。

**植村** ええ、これにもオチがあってね。これが吾味の面白いところ。試合前日からみんなとまりがけでどんちゃん騒ぎ、高谷さんなんかは「もうお前は吾味から破門や」とかなんとかいわれて盛りあがっている。そのうちのすごい雨が降ってきまして、朝になってもどしゃぶりの雨、やむ気配がまったくない。それで8時ごろになって、高谷さんがメンバーの人に中止を連絡したわけです。ところが、またまた飲みなおしていると雨がやんできましてね。昼ごろになったらスカッとやんでしまった。そうしたら誰かが、「強いやつがきよらんからいけるで」というようなことをいいだして、グラウンドの整備をやりだすやつがでてきたんです。

〈特集・専門を超えて〉

編集部 まるで子供ですね(笑)。

植村 そう、みんな子供時代に帰っている。もうそのときは年なんか考えていない。年をひしひしと感じるのは終わったあと(笑)。誰とはいいませんが、試合後1週間寝込んだ人もいます。で、高谷さんは藤沢の寮にいた人とか呼んでなんとか9人集めて、「ホナやろうか」ということになった。

編集部 相手は主力メンバーぬきでしょう！ 結構そこいですね(笑)。

植村 まあそういわんでください。でもそれらしいスコアでしょう。初め京大の伊藤さん(工学部教授)が投げて、後半は京工繊大の大田さん(工芸学部教授)がリリーフして見事勝ってしまった。それに審判もわれわれに有利なように吾味の会からだましてね。

編集部 目に浮かぶようですね。しかし、みなさん大学や企業にもどれば、教授であったり部長さんであったりでしょう。

植村 よくまあこんなバカができるなあ、とわれながら思うんですが、その時は興奮している。痛飲している時とおなじですね。しらふにもどると、忸怩たる思いがする。だけど最後は計画通り横浜市営球場を借りきってパイの連中と試合したいですね。それもウグイス嬢をつけて、しかも僕が解説者で。

編集部 ぜひ実現してください。そのときは応援にかけつけますから。

ところで、これからの企画で何か考えていることはありますか。

植村 最後のとっておきがある。いつになるかわかりませんが、みんなとお遍路さんしながら四国とかずーっとまわりたいですね。絶対やるつもりです。もう極端なことをいえば一緒に棺桶に入ってもいいなと、それくらいわれわれの絆は強い。もっとも植村とだけはいやや、というのがほとんどでしょうね(笑)。

## 化学同人の本

## 初心者に格好の手引書

遂に50万部突破!

# 実験を安全に行うために (正・続)

化学同人編集部 編

【正編】 事故・災害防止編 (四訂版) A 5・120頁・定価520円

三訂版(1985刊)では新しく「静電気対策」を加えたが、このたび消防法の一部改正に伴い、第1章の「危険物」の見直しを行った。

危険な物質の取扱い(引火性・爆発性・有毒性物質など)／実験室廃棄物の処理(無機系・有機系実験廃液の処理、その他)／危険な装置の取扱い(高圧装置、電気装置、高温・低温装置など)／応急処理(薬品による中毒、やけど、蘇生法など)

【続編】 基本操作・基本測定編 (新版) A 5・138頁・定価618円

新版(1988刊)では、共通すり・直示天秤・電熱が主流となった最近の化学実験に適応するように内容を改め、最近の器具をも追加して内容を一段と充実させた。

実験器具／ガラス細工／真空／粉碎／加熱／冷却／溶解／融解／攪拌／抽出／ろ過と遠心分離／乾燥／蒸留／濃縮／昇華／再結晶／脱色／秤量／密度・比重の測定／温度の測定／融点・分解点／pHの測定／容量器と滴定／付録



〈定価〉は税込みです。